

RJE3

EAST RUSSIA-JAPAN
EXPERT EDUCATION PROGRAM

NEWS LETTER

北大生短期派遣による RJE3 準備科目の開講 2016年2-3月

RJE3 プログラムでは、ロシアを知るファーストステップとしての「準備科目」を2月から3月にかけて開講しました。そこでは、主に大学院進学予定・希望の北大学部生17名を極東ロシアの3協定校に短期派遣することができました。

平成26年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム（通称RJE3プログラム）」では、北海道大学と、北東連邦大学（ヤクーツク）・イルクーツク国立大学（イルクーツク）・太平洋国立大学（ハバロフスク）・極東連邦大学（ウラジオストク）・サハリン国立大学（ユジノサハリンスク）の極東ロシアの5協定校と協働し、極東・北極圏で活躍が期待される専門家を育成するための国際連携教育システムの構築を目指しています。日露の教員が共同で開講する講義・実習・演習を通じ、日露の学生が科目を受講します。専門性をより高めたい学生には、北大・ロシア側大学への単位取得を目的とした留学も提供しています。

平成27年度に実施した「準備科目」での短期派遣では、2つのグループに分かれ、極東ロシアの3協定校やその滞在都市において現地のロシアでしか経験することができない研修を受講しました。今回の短期派遣により、学生は将来のロシア長期留学への感触をつかむことができました。

太平洋国立大学（ハバロフスク）への短期派遣 —極東ロシアの寒冷地開発技術を知る研修—

ハバロフスクの太平洋国立大学における研修は、工学院の瀬戸口剛教授が担当し、工学院の学生6名が参加しました。研修期間は、2月21日から3月1日でした。太平洋国立大学は、極東地域において工学系の分野が強い大学として知られています。

研修内容は、太平洋国立大学において北海道大学との共同で開催された国際フォーラム“New Ideas of New Century”に参加し、ロシアだけでなく韓国の教員・学生とも学術交流を中心におこなわれました。国際フォーラムでは、本学学生は、アーキテクト部門とエンジニア部門に分かれ、卒業設計・論文を英語で発表しました。その結果、本学学生6名すべてが各部門で受賞することができ、ロシアの大学でも高い評価を受けました。更にフォーラム期間中のプログラムには、グループに分けられた日露韓の学生が与えられた課題を解決するワークショップもあり、海外の学生・教員と討議する経験もできました。

国際フォーラムの他に、学生の専門分野である建築と土木から見たハバロフスク市内のエクスカッションもおこなわれ、極東ロシアの魅力を体感することができました。



太平洋国立大学開催の国際フォーラム
（上：北大生の参加風景）
（下：参加学生・教員の全体写真）

極東連邦大学（ウラジオストク）と 北東連邦大学（ヤクーツク）への短期派遣 —ロシアの歴史と文化を知る研修—

ウラジオストクの極東連邦大学とヤクーツクの北東連邦大学における研修は、アイヌ・先住民研究センターの加藤博文教授が担当し、学生11名が参加しました。研修期間は、3月5日から3月13日でした。連邦大学である両大学は、極東ロシアの中でも、教育と研究の両側面において中心的な役割を担っている高等教育機関です。特に極東連邦大学は、日本の多くの大学が協定を結び、日露学術交流をおこなっている大学としても有名です。



極東連邦大学の施設見学の様子

はじめに訪れたウラジオストクでは、極東連邦大学の施設と設備の見学、大学博物館や市立博物館の訪問、そして旧日本人街の散策などの研修をおこないました。また、北海道銀行ウラジオストク駐在員事務所の中川文敏所長や在ウラジオストク日本総領事館の原田浩一郎領事から、日露関係の実践的な経験談を交えながら、極東ロシアの現状と今後の展望などの貴重な話を聞くことができました。また、文化活動の一環として、バレエ観劇もおこない、本場でロシア文化を体験しました。

9日にウラジオストクから移動し、次の訪問地であるヤクーツクでの研修を開始しました。北東連邦大学では、ロシアの歴史文化や言語の講義をはじめ、ヤクーツクの地域史の講義もあり、多民族国家としてのロシアを考える上で重要な機会を得ることができました。また、講義後の大学・市内の充実したエクスクーションもあり、世界的にもめずらしい永久凍土の上に立つヤクーツクの環境を肌で感じることができました。



黄金橋とマトリョーシカ
(ウラジオストク市内鷺の巣展望台から)



講義における日露学生の交流の様子
(北東連邦大学・ヤクーツク)



大学博物館での北大教員・学生の集合写真
(北東連邦大学・ヤクーツク)



氷像の前での日露学生の記念写真
(ヤクーツク市レーニン広場)

持続的発展研究会の立ち上げ 2016年2月

RJE3 同窓生が継続的に集う会

—ロシア側留学生の成果発表と参加者全体での意見交換—

極東・北極圏地域の持続的な発展に向けて定期的な会合開催を構築するため、2月3日に北海道大学で持続的発展研究会を立ち上げました。日露のRJE3参加学生、日露の大学教職員、道内の企業・自治体・研究機関等の関係者など計43名が集まり、平成27年度のRJE3プログラム成果を全体で確認しました。

持続的発展研究会は2部制で構成されており、1部ではロシア側の長期受入学生9名が本学で学んだ研究成果を発表し、今後の研究生活に活かす計画もあわせて報告しました。学生の指導教員からは留学中の学生の研究生活について専門分野の見地から総論があり、学生が本学で学んだ意義を強調してもらいました。2部では、1部のロシア側学生の成果発表も含めた年間の活動実績に基づき、日露のRJE3参加学生、日露の大学教職員、道内の企業・自治体・研究機関等の関係者と共に、これからのRJE3プログラムの将来展望について討論しました。

本研究会の立ち上げにより、各方面からの意見やニーズをまとめる場を形成することができ、今後のプログラムの発展に役立てる体制を整えることができました。



北海道大学開催の持続的発展研究会の様子
(上：ロシア学生の発表風景)
(下：ロシア側長期留学生の集合写真)

RJE3 プログラムニュースレター Vol.2

発行：RJE3 プログラム センtral・オフィス

北海道大学 国際本部 2F 国際連携課内

〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目

電話：011-706-8143 FAX：011-706-8036

E-mail: RJE-3@oia.hokudai.ac.jp

URL: <http://rje3.oia.hokudai.ac.jp/>



「RJE3」の略称は、「East Russia-Japan Expert Education Program」の「R」と「J」、3つの「E」の頭文字を取ったものです。